

2013年 初頭のご挨拶

『ならぬものも、なるあり』

福島から世界へ

— 2013年を迎えて —

あけましておめでとうございます。

新しき年明けの芽出度くも、晴れがましい気候が、一年中満ち溢れて、皆様方が福豊かで、好運の年でありますことを、お祈り申し上げます。

さて、NHKTVでは、大河ドラマ『八重の桜』が始まりましたね。

綾瀬はるかさん演じる『幕末のジャンヌ・ダルク』と呼ばれた新島八重が、会津魂で日本の夜明けと、どのように関わって行くかが、今から楽しみです。

今、どうして八重なのか。どうして会津なのか。

当時の「戊辰戦争」、薩長と会津の怨恨を描いて、県民の憎悪をさらに増幅しないものかと心配します。

でも、それは恩讐を越えて、3・11、福島復興への熱い祈りが込められているのではないのでしょうか。全国民の福島のみなさんへの応援歌になることを切に祈らずにはられません。

昨年夏、私は初めて『倭詩／やまとうた』の題名で自著を上梓しましたが、その後も引き続き「森下自然医学」誌に、『倭詩』を連載しています。

その昨年の連載で、奇しくも三度にわたって会津のことを書いていたので、少しご紹介します。

「福島の奇跡・奇跡の福島」（第一回）
反原発の小出裕章京大助教からは、子供

を被曝から守りながら、第一次産業を守るために50歳以上の大人は被災地の農産物を食べるべきことを大人の責任の取り方として提言しています。一方、茨城大学・中島紀一元教授によると「福島の農産物には、放射能がほとんど出ない」とのデータ発表があり、この福島の奇跡に、みな感動したのです。

「唐紅のはな、白菊のはな」（第四回）

明治維新の立役者・坂本龍馬を暗殺したのは、会津藩主松平容保の命に依り「京都見回組」与頭・佐々木只三郎であったとされます。尽忠報国の幕臣で一心に節義を守ろうとした彼も、世界と開国通商しようとした龍馬も、根底では国を守りたいという同じ赤心の行為であり、そこは生死や敵味方を超えていたのです。

「母の諫死 師の警策」（第六回）

戦前、極左であった田中清玄は、母の諫めの自害によって目が覚め、山本玄峰老師に師事して宇宙と一つなりとの悟りを得ます。会津藩筆頭家老・田中土佐の子孫であった清玄は、持ち前の直截的な生き方で、第二次世界大戦を終結させる働きをし、その後、世界各国に奔走して、日本のためにアジア連盟を提唱して大活躍するのです。

そして、新島襄の妻となった気丈夫な八重も、京都で「同志社大学」を開く夫を助け、八面六臂の活躍をして世界への扉を開放するのです。

倭
え
年